

史図書出版のあり方を示唆する書でもある。

(鈴木 則子)

〔思文閣出版、京都市左京区田中関田町二一七、電話〇七五  
一七五一—一七八一、二〇〇四年三月、A五判、七四頁、  
本体価格二五〇〇円〕

壬生町歴史民俗資料館

『みぶ蘭学人あらわる』

徳川将軍の日光参詣に使われた日光道中壬生通りをもつ栃  
木県壬生町では、約十年にわたって町立歴史民俗資料館が中  
心となって、蘭学を学び奨励した人々も歩いたこの道を軸に、  
郷土の先覚者の息吹を新しくほり起こしてきた。このたびそ  
れらの業績をまとめてパンフレット「みぶ蘭学人あらわる」  
を刊行した。

二十二頁の小冊子ながら藩主と学問、西洋医学の導入者・  
斎藤玄昌、壬生の解剖、種痘実施の医人、蘭学通りの名医た  
ちなど、医史にかかわる史実がコンパクトにもりこまれ、非  
常に有益な出版物となっている。

(中西 淳朗)

〔壬生町歴史民俗資料館、〒三三二—〇三二五 栃木県壬生  
町本九一—八—三三三、電話〇二八二—八—二八五四四、一

冊・二〇〇円、送料は三冊まで一八〇円、現金書留もしくは  
郵便振替で申込)

日本学校保健会 編

『日本学校保健会八十年史』

学校保健の淵源は明治三十一年の勅令「全国の公立学校に  
学校医を置く」にある。明治初期にはコレラ、天然痘等の伝  
染病予防、学校設備の衛生、生徒らの休退学、病弱法の防止、  
後期にいたり学校衛生顧問の活動、学校清潔法、学校伝染病  
予防、身体検査、学校医などの諸規定が公布され学校衛生の  
基礎が確立された。この間、最も功績のあったのは、明治二  
十四年文部省学校衛生事項取調嘱託に命ぜられた三島通良で  
ある。明治三十六年に雑誌「学校衛生」が創刊されている。

大正期となり、同二年に大日本学校衛生協会が結成され  
「日本学校衛生」を機関誌として創刊し、学校衛生の啓蒙に  
供した。また、この年には第一回学校衛生協議会を開催し、  
学校衛生の組織的活動基盤を確立した。

本書では明治大正期については略述されており、掘り下  
げて検索するときには学制発布百年を記念して発刊された  
『学校保健百年史』(昭和四十七年刊)に拠らねばならない。

大正九年に大日本衛生協会を母体として帝国学校衛生会  
が発展的に誕生した。敗戦後の昭和二十一年には日本学校  
衛生会となり、同二十九年に日本学校保健会となり、この